

## 佳作

大内小学校 5年 平泉 皓識

表題「カブトムシ山に帰る」を読んで」

書籍名「カブトムシ山に帰る」

ぼくがこの本を選んだきっかけは、ぼくがものすごく虫が好きで、去年も同じ人の本を読んでおもしろかったからです。

去年かったカブトムシとクワガタの幼虫がこの夏に羽化し、成虫をほり出しました。そのときは、もう涙が出るほどうれしかったです。この夏も、カブトムシの卵が十個もとれました。

夏休みの本を図書館で探していて、この本を見つけたときには「ぼくにぴったりだ！」と思い、手に取りました。

この本を読んで新しく分かったことは、幼虫の大きさについてです。環境がよいと、幼虫や成虫の大きさが変わるそうです。

たとえば、土がかわいていてもだめだし、ぬれすぎていてもだめで、ちょうどよいしめり具合が大切だそうです。温度も大切です。高すぎても低すぎてもだめで、二十五度ぐらいの温度がちょうどよいそうです。

ぼくが家で管理している卵のかんきょうが、大体正しいと分かって安心しました。大きくなってくれるとうれしいです。

他にも、カブトムシの持ちようや見どころ、生息している木について詳しく説明されていて、「カブトムシって奥が深いなあ。」と感動しました。

これから我が家の卵を観察していくと、本には書かれていないぎ問が出てくるかもしれないと思うとわくわくしてきました。これからは、そのぎ問を忘れないようにノートに書きとめておいて、山口さんや他の人の本でどんどん調べて、今以上に詳しくなりたいです。

山口さんの書いているカブトムシが育つためによい環境は、「そのまま丸森町にあてはまるなあ。」と思いました。もしかしたら、丸森の自然と毎日ふれ合っているから、ぼくは虫が好きなのかもしれません。丸森の自然を何十年たっても、大切にしていきたいです。